



塾生さん、いま何してる？

『塾生インタビュー①～永井 悠太さん～』

今月と来月に分けて塾生2名のインタビューを掲載します！二人のことを知って、今後の成長を応援していただけると嬉しいです！！



ろくろ鉋(バイト)を鍛造中の永井悠太さん

- Q1 作り手養成塾への志望動機**  
A1 普段からオケクラフトを使っていて、使っている器等を自分でも作ってみたいと思ったからです。また、二年で技術習得し独立ができるなど、修業期間が短いことや、製作した商品の買取制度がある等、他市町村の制度と比較しても安心感が高かったことも志望動機となりました。
- Q2 置戸町のイメージは？**  
A2 自然が多く、社会教育が盛んな町。
- Q3 オケクラフトについての感想**  
A3 木の樹皮を生かしたものがあつたり、木目や収縮するといった木の特徴を生かしたりと、木を大切に扱った商品があつて興味深い。
- Q4 今後の目標は？**  
A4 まだ、器をひとつも作れていないので、早く仕事を覚え、一日にひとつでも器を作れるようになりたいです。
- Q5 町民の皆さんへ一言**  
A5 七月末に置戸に来て、三か月半程が経ち、少しずつ慣れてきましたが、まだ分からないことだらけです。いろいろな教えてくださるアウトドアが好きなので、いい情報がありましたら教えてください。

【願いを掛ける 日本の習わし - 絵馬 -】

日本では古くから、願をかける際に神社へ「絵馬」を奉納するのが習わしとしてあります。この歴史は古く奈良時代から始まったと言われてますが、この「**絵馬を奉納する**」という風習はどのようにはじまったのでしょうか。

古来より馬は、「神様の乗り物 (=神馬)」と考えられ、神様は馬に乗って人間の住む俗世界へ降りてくるとされています。そのため、祈願や神事・祭礼の際には神霊の降臨を求めて、生きた馬を奉納することが風習としてありましたが、貴重な馬を奉納することは一般には難しく、財力・権力をもつ一部に限られていました。そこで広まったのが、「馬形」と呼ばれる銅や木などで作られた馬のミニチュアを奉納することでした。それでもなお、奉納することが難しい人たちの間で広まったのが、紙や木の板に馬の絵を描いた、現在一般的とされる「絵馬」の形です。

また、絵馬発祥の地とされる京都の「貴船神社」は、古くから水の神様、特に雨乞いの神として名高く、歴代の天皇は**干ばつの時、雨を願う時には黒馬を、長雨で晴れを願う時には白馬(または赤馬)が奉納**されており、これが後に実際の馬に代わって木の板に描いた馬が奉納されたことが絵馬の原型であるとも言われています。

今日は何を知ろうか



↑「黒馬」と「白馬(赤馬)」が描かれた絵馬

ふか  
がよ  
み  
し  
ょ  
ん

今月の一品

かくれた一品 おすすめの一品  
毎日 オケクラフトとともにいる  
私たちの一品をご紹介します！



樹種：エゾマツ  
価格：3,850円(税込)  
サイズ：直径65mm×高さ90mm

私の今月のイチオシは、「スリムカップ」(木工房 ICHIGOSHI 作)です。手の中に納まりの良いくびれのあるこの形は、持ちやすいだけでなくモダンを感じるただずまいです。冷たさが手に伝わりづらく口当たりの良いこのカップで、暖かいお部屋で冷たいお飲み物などいかかでしょうか。冷酒やちよつと冷やした白ワインがお勧めです。何かと忙しい年の瀬に、このカップでほんのひと時ホッとしませんか。



ショップ販売員 青島

どま工房企画展終了のご報告

10月15日より開催しておりました「日本の手仕事道具 - 秋岡コレクション」の企画展【たんじゅん】で【ふくざつ】-2枚の刃物「はさみ」のいろいろ-が、先月27日に会期を終了しました。

秋岡コレクションといえば、大工道具というイメージが強い中、日常で使用する刃物を一度にご覧いただく機会は珍しいものだったのではないのでしょうか。ご来館いただいた皆さまありがとうございます。

企画展は毎年10月から11月にかけて開催しています。毎回テーマを設け多くの資料から数百点を展示しますので、ぜひ一度お越しください。



【様々な種類の鉄】  
▼特徴的な形をした和鉄  
▼握り鉄や一般的な洋鉄  
▼職人専用の鉄は個性的

【様々な使用される包丁】  
▼用途は同じでも地域毎に異なる包丁の形状や  
▼特殊包丁の展示

森林工芸館・どま工房からのお知らせ

森林工芸館の年内の営業日は12月29日(木)まで、年明けは1月4日(火)10時からの営業となります。  
また、企画展開催に伴い、貸館を休止していただきますが、12月10日(土)より貸館を再開いたします。年内のご利用は12月25日(日)まで、年明けは1月6日(金)よりご利用いただけます。ご利用を希望される方は、森林工芸館(02-2170)までご連絡ください。

毎月 1日発行 森林工芸館 発行

森林工芸館のあれこれ

こちらのQRコードから「森林工芸館のあれこれ」バックナンバーをご覧いただけます。

